

に、せん断変形させる方法で各種の繊維織物及び織物構造の異なる織物のせん断変形特性を測定した。

3. 織物に強制伸長変形を与えた応力状態でのせん断特性にはせん断変形様式によるせん断挙動の差が見られ、織物を構成する繊維固有の特性と織物構造が、せん断変形特性に及ぼす効果が顕著に認められた。

B—25 織物のせん断変形に関する研究（第1報） せん断変形様式とその測定方法

奈良女大家政 ○山田 洋子
 金蘭短大 高力 紀子
奈良女大家政 丹羽 雅子
 古里 孝吉

1. 織物を構成するたて糸とよこ糸は、直交しているが、これらの糸の交差角は、低いせん断抵抗力で容易に変化することが、織物構造体の特徴である。このような特性は、織物で被服を構成する時、三次元の空間曲面をとる人体表面に平板構造の織物を適合させるために寄与し、また、織物のドレープ性、柔軟性、手触りや風合などに大きく影響する。さらに被服を着用した場合、動作にともなう人体各部位の変形に対して、織物の変形の追従性に関係し、たとえば、肘、膝それに尻部の変形などは、織物の構造主軸方向への引張り変形をともなったせん断変形を織物に与えている。本報では、被服構成時及び被服着用時に織物に加わる種々のせん断変形を調査し、これらのせん断変形を与える方法とその測定方法について検討し、二三の織物のせん断変形特性の測定例について考察する。

2. 二軸引張り試験機を用いて織物にせん断変形を与える方法、特に試料をクランプする方法を吟味し、織物に強制伸長変形または強制伸長荷重を与えた状態のもと